



耐火建築物または準耐火建築物としなければならない建築物

	用途	耐火建築物（階数又は床面積）		準耐火建築物
		階数	床面積	床面積
1	劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場等	3階以上	客席200㎡（屋外観覧席にあっては1000㎡）以上	
2	病院、診療所、ホテル、旅館、下宿、共同住宅、寄宿舎、社会福祉施設、児童福祉施設等	3階以上		2階部分300㎡以上（病院及び診療所は、その部分に患者の収容施設があるものに限る）
3	学校、体育館、博物館、美術館、図書館、ボーリング場、水泳場、スポーツの練習場	3階以上		2000㎡以上
4	百貨店、マーケット、展示場、キャバレー、カフェ、ナイトクラブ、バー、ダンスホール、遊技場、公衆浴場、待合、料理店、飲食店、物品販売業を営む店舗等	3階以上	3000㎡以上	2階部分500㎡以上
5	倉庫等		3階以上200㎡以上	
6	自動車車庫、自動車修理工場、映画スタジオ、テレビスタジオ	3階以上		150㎡以上

（注）このほかにも、危険物倉庫や消防法による消防設備の関係で耐火建築物、準耐火建築物にした場合があります

2. 吹付け石綿が使用されているか否かの調査

(1) 吹付け石綿の使用部分の図面調査

調査建物について、各施設に保管されている工事の設計書（内訳書）や図面から、石綿吹付けが行われているか調査します。

設計書では、鉄骨工事、左官工事、内装工事等の項目に石綿吹付け（トムレックス等商品名を記載している場合が有ります。）、ロックウール吹付け（岩綿吹付けと記載している場合が有ります。）と記載されているものがあるか調査します。

図面では、特記仕様書、仕上表、矩計図、断面詳細図等上記例のような記載があるか調査します。

設計書や図面が紛失されている場合は、目視による現地調査により判断することになります。天井が高い場合や天井裏等調査が困難な場合があり、できるだけ図面等で確認してください。

吹付け石綿、石綿含有ロックウールの商品名の例

吹付け石綿	①プロベスト	②オパベスト	③サーモテックスA
	④トムレックス	⑤リンペット	⑥ノザワコーベックス
	⑦ヘイワレックス	⑧スターレックス	⑨防湿モルベスト
石綿含有 吹付け ロックウール	①スプレーテックス	②スプレーエース	③スプレイクラフト
	④サーモテックス	⑤ボロベストR	⑥ノザワコーベックスーR
	⑦アサノスプレーコート	⑧バルカロック	⑨ヘイワレックス
	⑩オパベストR	⑪ベリーコートR	⑫タイカレックス
	⑬ニッカウール	⑭浅野ダイアブロック	⑮スターレックスーR
	⑯トムウェット	⑰アサノスプレーコー	⑱サンウェット
	⑲吹付けロックンライト	トウェット	

吹付けロックウールは、昭和55年以降一部のものを除いて、石綿を含んでおりません。

(2) 吹付け石綿の使用部分の現地調査

図面調査でアスベストの使用が確認された場合、または図面等で確認することができない場合、現場目視調査を行います。

吹付け石綿と類似している材料としては、吹付けロックウール及び吹付け蛭（ひる）石（パーミキュライト）等があります。それらの特徴は下表のとおりです。目視調査により、これらの特徴が認められるかどうかの確認を行い、対象となる吹付け材料の種類のおよその見当をつけます。しかし、実際に建築物で用いられている吹付け材料の種類を特定するためには、分析調査を実施する必要があります。

なお、現場で目視調査を行う場合は、飛散の可能性がある場合、マスク、使い捨て衣類などを着用することが望ましいと思われれます。

針による貫入度の特徴

成型板 吹付けひる石（パーミキュライト）	針を材料に貫入させても、容易に貫入しない。
吹付け石綿 吹付けロックウール	針は容易に貫入し、その深さは数cm程度である。

吹付け材料の色、光沢等の特徴

吹付けひる石 （パーミキュライト）	黄金色で、光沢がある雲母状の鉱物が確認できる。
吹付けロックウール	外見上、吹付け石綿と最も類似しており、下欄に示す吹付け石綿の識別方法に該当しないものは、これである可能性が高い。
吹付け石綿	青色、灰色、白色及び茶色に仕上がっている。青色の場合は、クロシドライト（青石綿）による吹付け石綿であり、茶色の場合は、アモサイト（茶石綿）による吹付け石綿である。2層吹きになっている場合は、下吹きが青色若しくは灰色、上吹きが白色の場合は吹付け石綿である。

(3) 分析調査による判定

施工から年数が経過している場合や下吹きが青色若しくは灰色、上吹きが白色の吹付け石綿など、目視により簡単に判別することが難しいケースも多くあります。このため、吹付け石綿の使用の有無を特定するためには、建材を採取し、位相差顕微鏡を使用した分散染色法による分散色を確認し、繊維状粒子で分散色が認められた場合、X線回折法によりアスベスト含有率を求めることとなります。

### 3. 吹付けアスベスト層の劣化現象の種類

吹付けアスベスト層の劣化現象の種類は表 4.3.1による。

表 4.3.1 吹付けアスベスト層の劣化現象の種類

劣化現象	定義・主な要因
① 層表面の毛羽立ち	吹付けアスベスト層の表層部で結合材の劣化などによってアスベスト繊維が毛羽立っているもの。
② 繊維のくずれ	「毛羽立ち」の程度からさらに劣化が進行し、表層、又は表層下部の繊維がほぐれて荒れた状態になっているもの。
③ たれ下がり	吹付けアスベスト層の一部が劣化、外力等によって層外へたれ下がっているもの。
④ 下地とアスベスト層との間の浮き・はがれ	アスベスト層の下地への付着力が低下することによって、アスベスト層と下地との間にすき間、はく離がみられるもの。
⑤ 層の局部的損傷・欠損	人為的、又は経時変化によって、アスベスト層の表面、層自体の層間・下地間で生じた局部的な凹凸、はく落、はく離。
⑥ 層の損傷・欠損	人為的、もしくは経時変化によって生じた施工面のほぼ全面にわたる凹凸、はく落、はく離。

劣化現象をモデル化したものを図 示す。

